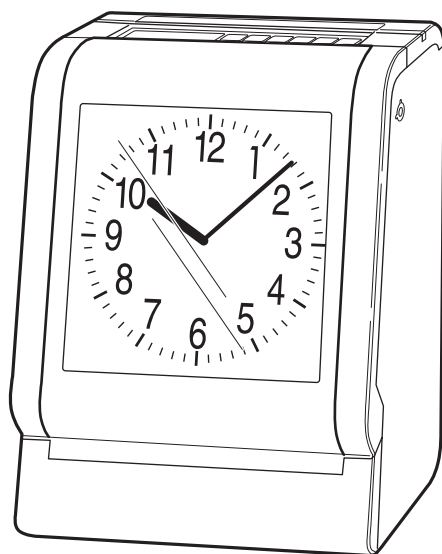


タイムレコーダー

QR-900

取扱説明書



ご利用前に必ずご確認ください。

- リボンカセットの取り付け・交換方法 …… 6ページ
- 縮日の設定 …… 13ページ
- タイムカードの種類の設定 …… 30ページ

SEIKO



はじめに

このたびは、弊社タイムレコーダーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。タイムレコーダーを安全に正しくご使用いただくために、お使いになる前にこの取扱説明書を、必ずお読みください。またお読みになった後は、いつでもお使いいただけるように大切に保管してください。

1. 本書の内容につきましては、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
2. 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、万一お気づきの点、ご不明の点などがありましたら、ご購入の販売店までお問い合わせください。
3. 運用に際しましては、本書の内容を十分に理解いただいた上でご活用ください。
4. お客様が本機を運用された結果の影響につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。
5. 本書の内容の一部のあるいは全部を、無断で複製することは禁止されております。

目次



1. 安全に正しくお使いいただくために	1
2. 特長	3
3. ご使用になる前に	4
付属品をお確かめください	4
各部の名称とはたらき	4
重要 ご使用前に必ず行ってください	5
設置について	5
4. リボンカセットの取り付け・交換方法	6
5. 日常の操作	8
6. 設定のしかた	9
設定の準備	9
操作ボタンの使い方	10
タイムレコーダーの初期設定	10
日付の設定	11
時刻の設定	12
締日の設定	13
印字段切換時刻の設定	14
週間プログラムの設定	16
(赤黒2色印字・外部時報の吹鳴時刻・指定印字欄)	16
プログラム内容を確認するには	20
プログラム内容を変更するには	20
プログラムを消すには	21
外部時報の吹鳴時間の設定	22
ランダムブザー吹鳴の設定	23
パスワードの設定	25
パスワードの解除	26
印字パターンの設定	28
基本印字パターンの設定	29
時刻「分」印字の設定	29
タイムカードの種類の設定	30
レコーダーナンバーの設定	32
リセット	33
7. 外部時報のつなぎ方	34
8. タイムカードの印字例	35
9. こんなときには	36
エラー番号が表示されたら	36
故障かなと思ったら	36
10. 仕様一覧	37
11. 別売付属品および消耗品	38






1.安全に正しくお使いいただくために







本書は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、守っていただきたい事項を示しています。



絵表示について

本製品の取扱説明書及び製品への表示では、製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、感電する「危険」があることを示します。	 この表示は、必ず実行していただきたい内容を示しています。
 この表示は、分解してはいけないという、「禁止」を示しています。	 この表示は、必ず電源プラグをコンセントから抜いていただきたいことを示しています。
 この表示は、してはいけない、「禁止」行為であることを示します。	

 警告	
 この機器を分解しないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電のおそれがあります。	
 この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。	
 万一、発熱していたり、煙が出ている、変な臭いをするなどの異常状態が発生した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。	
 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。またタコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。	
 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電のおそれがあります。	

	万一、異物(金属片、水、液体など)が機器の内部に入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

注意

	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
	この機器の上に水などの入った容器または金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となることがあります。
	湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
	調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
	プラグを抜くときは電源コードを引っ張らないでください。 (必ずプラグを持って抜いてください) コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
	本機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
	プリンターのヘッド部分には、触れないよう、ご注意ください。けが、火傷の原因となることがあります。
	電源プラグは奥まで確実に挿入してください。火災、感電の原因となることがあります。
	タイムカードの挿入口には指定のタイムカード以外は差し込んだり、落としたりしないでください。火災、感電の原因となることがあります。
	万一、この機器を落としたり、ケースを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

日頃のお手入れについて

ケースが汚れたときは電源プラグをコンセントから抜き、ほこりや汚れを乾いた布などで掃除してください。

2. 特長

★多人数のご利用に最適

このタイムレコーダーは長寿命のドット・マトリクス・ヘッドを搭載しており、50～100人程度の多人数のご使用にもしっかりお応えします。

★充実の週間プログラム機能を搭載

曜日ごとにとても便利な機能を利用することができます。

■赤黒2色印字

遅刻や早退、休日出勤など赤色印字でハッキリ区別して印字することができます。

■印字欄の自動移動

時間帯ごとに印字欄が指定できますので日々のわずらわしいボタン操作なしで出勤や退勤あるいは外出など別々の印字欄に印字することができます。

■外部時報機能

タイムレコーダーのリレー接点ON/OFFの切り替えにより外付けのチャイムなどを鳴らすことができます。

★1日に6回印字が可能

1日に6回まで印字ができるので休憩や外出などでもしっかり記録します。

★各種の印字パターンをご用意

タイムカード上に打たれる印字は「日付+時刻」や「曜日+時刻」、また時刻の「分」も60進、100進とご使用に合わせて選択できます。

★セキュリティ機能も装備

改ざん目的など故意の時間修正や設定の変更を防止するため、タイムレコーダー本体にはカギを装着しています。また、さらにパスワード機能もありダブルのセキュリティ対応です。

★対応タイムカードの種類も豊富

タイムカードは両面6欄のCおよびYカードシリーズ、片面4欄のD及びGカードシリーズ、片面6欄のHカードシリーズがご利用いただけます。1ヵ月分の印字がタイムカードの表の面のみで確認できる片面カードは使い勝手が良く、とても便利です。

★ユニークな機能も搭載

■レコーダーナンバー機能

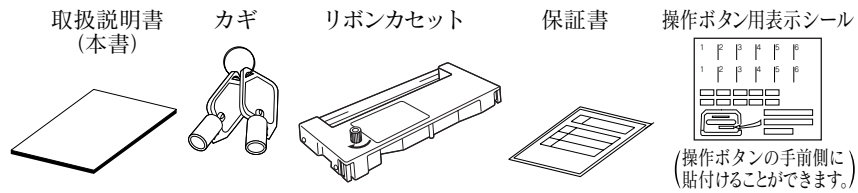
タイムレコーダー1台1台に個別のナンバーの登録が可能で、印字もそのレコーダーナンバーが表示されるので、複数台でご利用いただく場合、どのタイムレコーダーで印字されたか識別できます。

■ランダムブザー吹鳴

タイムカードを挿入したとき、設定した確率に合わせて内部ブザーを鳴らすことができます。小売店など従業員の持ち物検査などにもご利用いただけます。

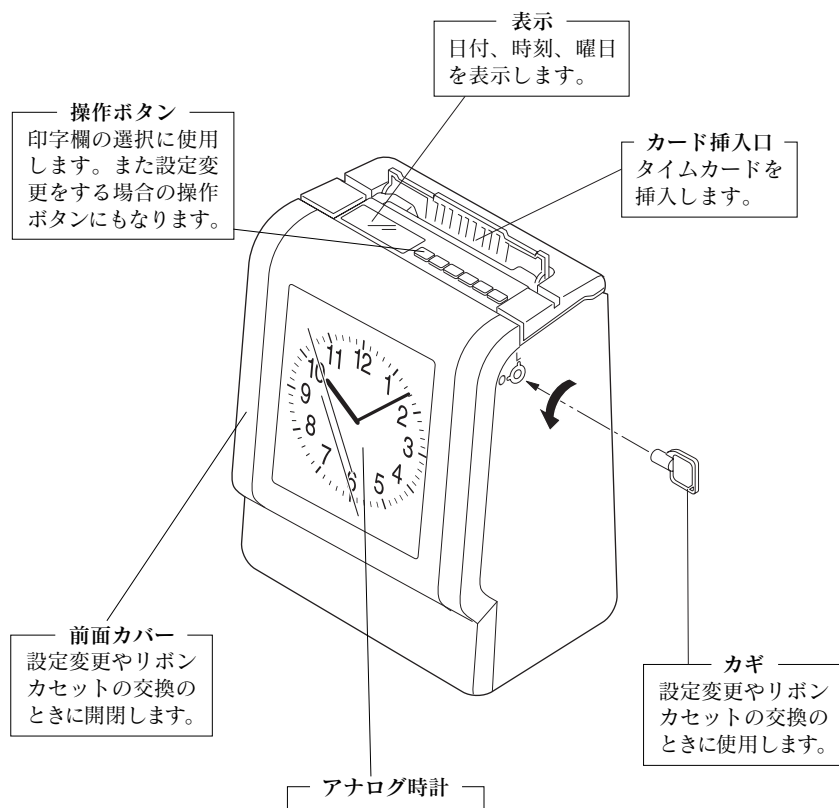
3. ご使用になる前に

付属品をお確かめください

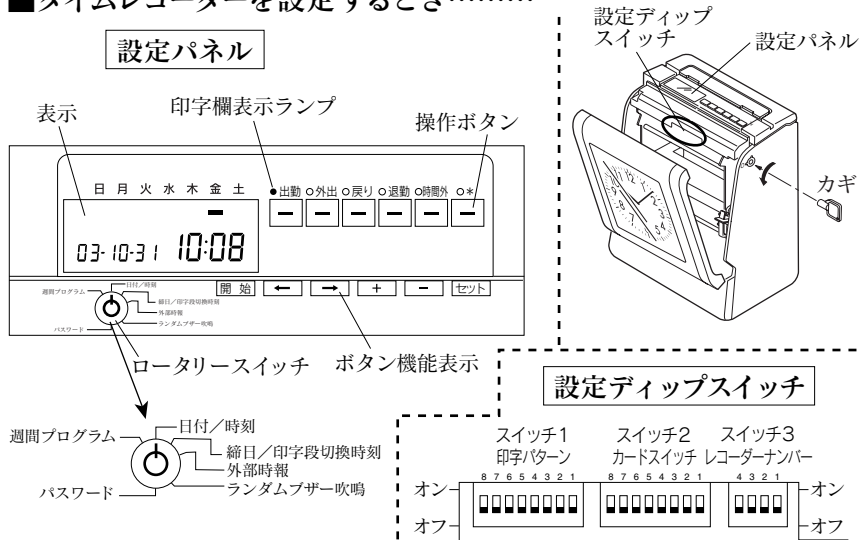


各部の名称とはたらき

■日頃のご使用时……



■ **タイムレコーダーを設定するとき……**



ご使用前に必ず行ってください

■ **「タイムカードの種類」と「締日」を確認してください**

このタイムレコーダーは初期設定としてあらかじめ、タイムカードの種類および締日が以下のように設定されています。異なるご使用を希望される場合は後述の「6. 設定のしかた」の「締日の設定」および「タイムカードの種類の設定」をご参照いただき、正しく設定してからご利用ください。

初期設定

- タイムカードの種類：CカードシリーズおよびYカード（両面6欄カード）
- 締日：月末締め

■ **付属品のリボンカセットを取り付けてください**

後述の「4. リボンカセットの取り付け・交換方法」をご参照いただき、正しくリボンカセットを取り付けたあとご利用ください。

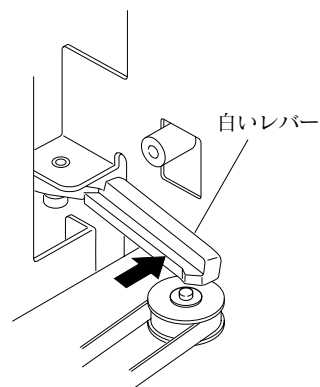
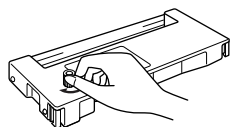
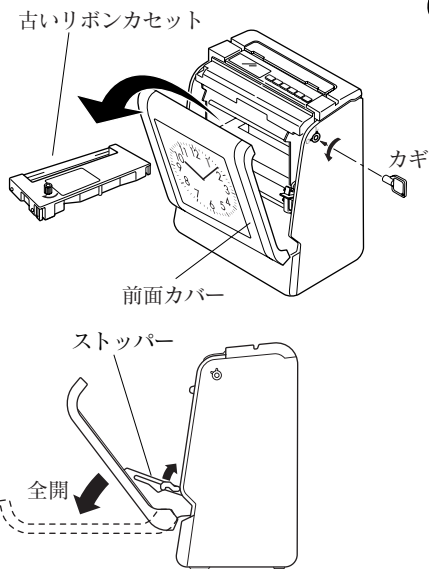
設置について

次のような場所でのご使用は避けてください。

- 湿気やほこりの多い場所
- 直射日光のあたる場所
- 振動の激しい場所または常時振動が発生する場所
- 気温が-5℃以下や、45℃以上の場所
- 化学薬品やオゾンなどの影響を受ける場所

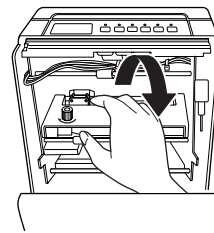
4. リボンカセットの取り付け・交換方法

印字がうすくなりましたら、次の手順でリボンカセットを交換してください。



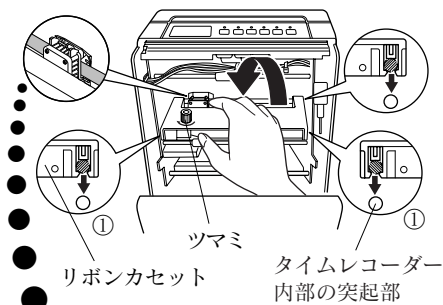
- 1 カギを開け、前面カバーを前側に開けます。このとき、前面カバーの右側根元のストッパーを持ち上げるとカバーが全開になりますのでリボンカセットの交換がやりやすくなります。

ご使用中に古いリボンカセットを新しいものと交換する場合は、古いリボンカセットを取り外します。

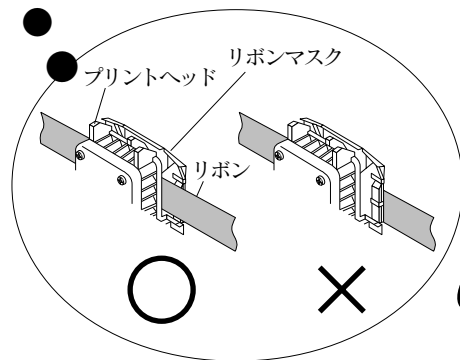


- 2 新しいリボンカセットのつまみを矢印の方向に回して、リボンのたるみを伸ばします。

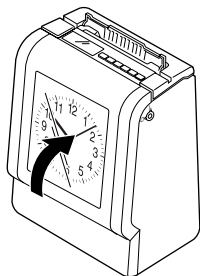
- 3 タイムレコーダー内部中央右側の白いレバーを、パチンと音がするまで右側に押します。



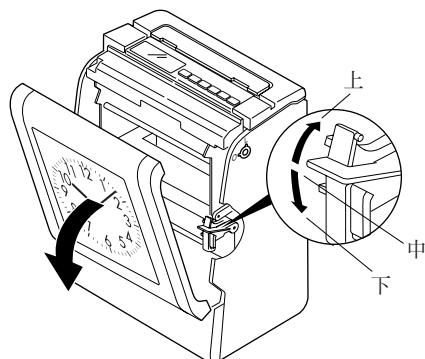
4 新しいリボンカセットの中央部を持って、左右手前側にあるツメをタイムレコーダー内部の突起部(支柱)にはめ込みます。……左図の①次にリボンカセットのツマミをカセットに刻印されている矢印方向に回して、リボンのたるみを取ってからリボンをプリンタヘッドとリボンマスクの間に入るようにカセットの先端を押し込みセットします。



5 セットしたらリボンカセットのツマミを、再び矢印の方向に2、3回まわしてリボンのたるみを伸ばします。



6 前面カバーを閉じてください。



※注意

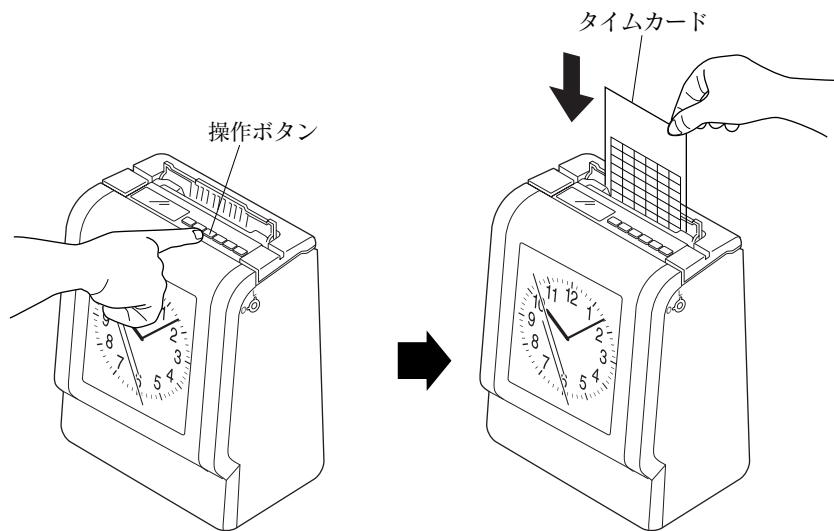
前面カバーを開けた際、左図の黒いレバーには、触らないでください。レバーの位置を“上”の位置、もしくは、“下”の位置に移動して、本製品を使用された場合、故障の原因になります。誤って移動させてしまった場合、必ず“中”の位置に戻してください。

5. 日常の操作

このタイムレコーダーは工場出荷時にあらかじめ現在日の年月日、曜日、時刻が設定されています。また、タイムカードはCカードシリーズおよびYカード（両面6欄カード）用に、そして締日は月末締めを設定されています。ご希望のタイムカードおよび締日の変更が必要な場合は後述の「6. 設定のしかた」をご参照いただき、正しく設定してからご利用ください。なお前述の「4. リボンカセットの取り付け・交換方法」をご参照いただき、リボンカセットを必ず取り付けたあとにタイムレコーダーをご利用ください。

タイムレコーダーの使い方はきわめて簡単です。タイムカードをタイムレコーダーにかかるく挿入すると、カードは自動的に引き込まれ、印字後に自動的に上がってきます。

タイムカードに印字される場所の横方向は、タイムレコーダーのランプの点灯している操作ボタンと同じ印字欄（タイムカード上のマス目）に印字します。違う印字欄に打ちたい場合は、ご希望のボタンを押してからタイムカードを入れます。なお、週間プログラムの「印字欄の自動移動」機能が設定されている場合は、ボタン操作なしでご利用いただけます。また、縦方向は、ご希望の締日を設定することにより自動的に印字欄（印字段）は決定されます。通常のご使用ではタイムカードの最後の段が締日の印字段となります。



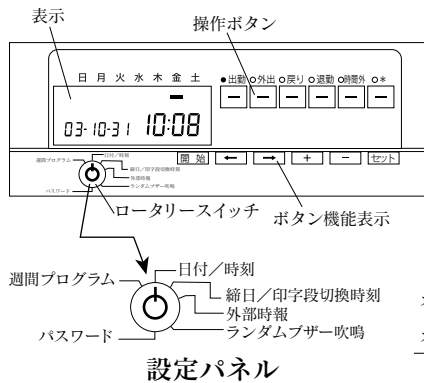
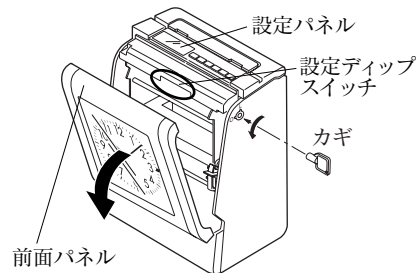
ご希望の印字欄がある場合

6. 設定のしかた

設定の準備

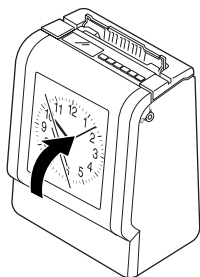
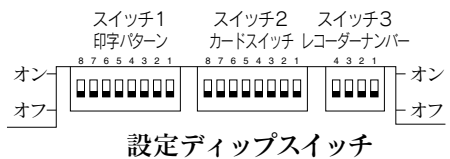
締日や時刻などを設定する場合は、タイムレコーダーのカギを開け、前面カバーを前側に開き、上面の設定パネルで操作します。また印字パターン、ご使用カードの選択、レコーダーナンバーの設定などは、タイムレコーダー正面上部の設定ディップスイッチを操作して行ないます。

設定するときには、コンセントに電源プラグをさしこみ通電した状態で行ってください。



1 カギを開け、前面カバーを前側に開き設定パネルが操作できる状態にします。

2 設定項目によりタイムレコーダー上面のロータリースイッチおよび設定パネルを使用する場合と、正面上部の設定ディップスイッチを使用する場合があります。各設定については次ページ以降をご覧ください。









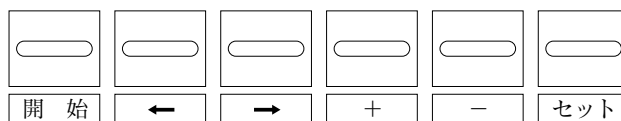
3 設定終了後は前カバーを閉じてください。

操作ボタンの使い方

締日や時刻などを設定する場合は、タイムレコーダー上面の6個の操作ボタンを使います。

表示の点滅している設定項目(数字)がボタンを使うことにより入力ができます。それぞれの操作ボタンの使い方は以下のようになります。

- | | |
|---|---|
|  | ボタン：設定の開始ボタンです。設定を始めるときに使用します。 |
|  | ボタン：表示の点滅している設定項目(数字)を移動するときを使用します。
このボタンを押すことにより点滅が左に移動します。 |
|  | ボタン：表示の点滅している設定項目(数字)を移動するときを使用します。
このボタンを押すことにより点滅が右に移動します。 |
|  | ボタン：表示の点滅している設定項目(数字)を変更するときを使用します。
このボタンを押すことにより点滅の数字が増えます。 |
|  | ボタン：表示の点滅している設定項目(数字)を変更するときを使用します。
このボタンを押すことにより点滅の数字が減ります。 |
|  | ボタン：設定のセットボタンです。設定を完了させるときに使用します。 |



タイムレコーダーの初期設定

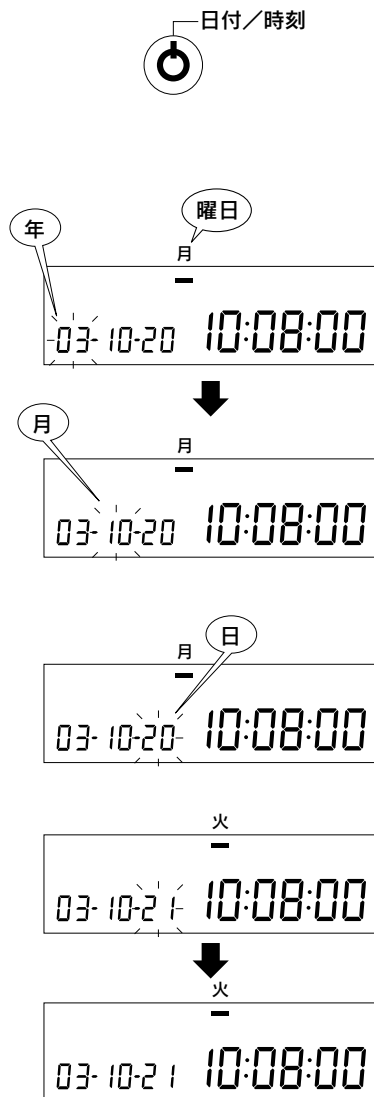
タイムレコーダーの初期設定(メーカー工場出荷の状態)はあらかじめ以下のように設定されています。

タイムカードの種類	Cカードシリーズ(C、C-20、C-25、C-31)およびYカード
印字色	黒印字
日付	現在日
時刻	現在時刻
締日	月末締め
印字段切換時刻	午前5:00
週間プログラム	設定なし
外部時報の吹鳴時間	5秒
ランダムブザーの吹鳴	設定なし
パスワード	設定なし
印字パターン	日付+時刻
レコーダーナンバー	設定なし

日付の設定

日付の設定は次の例を参考に行ってください。

例 2003年10月20日を同年同月21日に変更する場合



1 カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「日付/時刻」に合わせてください。

2 開始ボタンを押して、表示の左側の“年”（西暦下2桁）を点滅させます。例では、“年”は2003年のまま変更しませんので、次に \square ボタンを押して表示の点滅を“月”に移します。

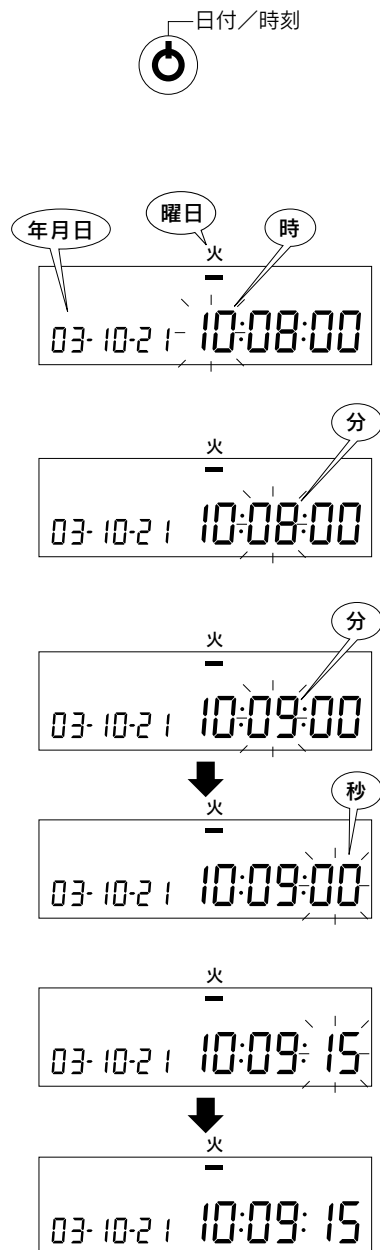
3 同じく例では、“月”も10月のまま変更しませんので、次に \square ボタンを押して表示の点滅を“日”に移します。

4 例では、20日→21日に変更しますので、 \square ボタンを押して表示の点滅を“21”に変更します。次に \square ボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

時刻の設定

時刻の設定は次の例を参考に行ってください。

例 10時8分00秒を10時9分15秒に変更する場合



① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「日付/時刻」に合わせてください。

② 開始ボタンを押し、次に \square ボタンを3回押して、表示の時刻の“時”を点滅させます。

③ 例では、“時”は10時のまま変更しませんので、さらに \square ボタンを押して表示の点滅を“分”に移します。

④ 例では、8分→9分に変更しますので、 \square ボタンを押して表示の点滅を“09”に変更します。次に \square ボタンを押して表示の点滅を“秒”に移します。

⑤ 例では、00秒→15秒に変更しますので、 \square ボタンを押して表示の点滅を“15”に変更します。次に \square ボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わり秒が進みだします。前カバーを閉じてご使用ください。

締日の設定

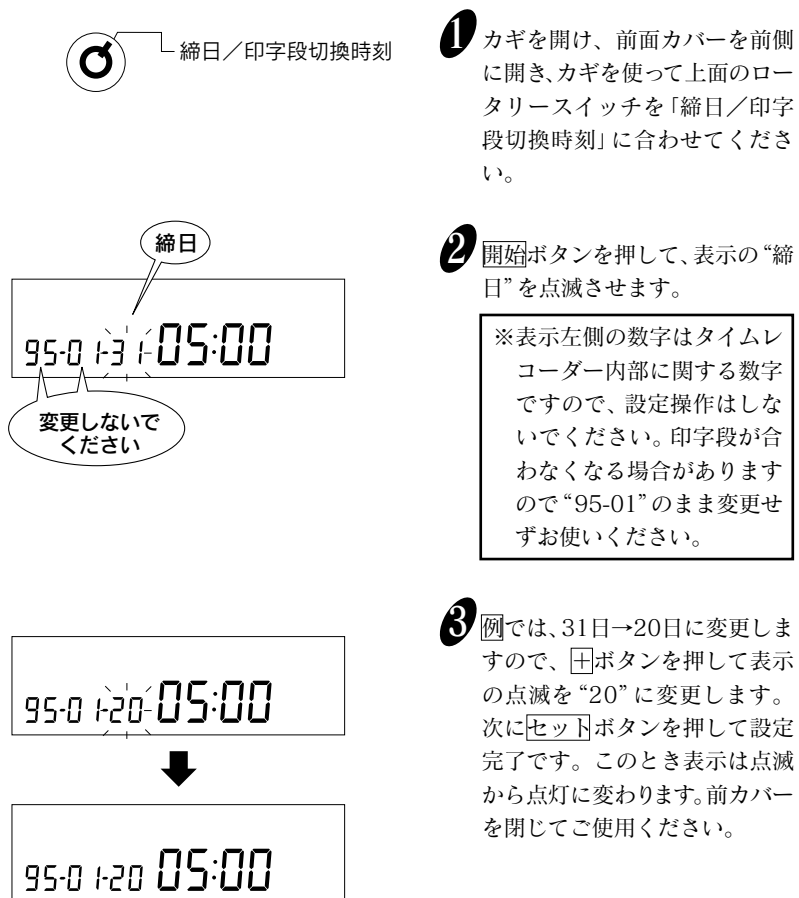
タイムレコーダーの初期設定は月末締めになっております。

※大の月、小の月によらず月末締めの場合は締日“31”のままご利用いただけます。

※Dカードをご使用の場合は締日“31”のままご利用ください。

締日の設定は次の例を参考に行ってください。

例 31日締めから20日締めに変更する場合



① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「締日／印字段切換時刻」に合わせてください。

② 開始ボタンを押して、表示の“締日”を点滅させます。

※表示左側の数字はタイムレコーダー内部に関する数字ですので、設定操作はしないでください。印字段が合わなくなる場合がありますので“95-01”のまま変更せずお使いください。

③ 例では、31日→20日に変更しますので、 \oplus ボタンを押して表示の点滅を“20”に変更します。次に \square ボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

印字段切換時刻の設定

タイムレコーダーの初期設定は、午前5時(05:00)になっております。

「印字段切換時刻」とは、タイムカードの印字の段が1段さがって次の日の段に切り換わる時刻のことを言います。夜勤などで午前0時を過ぎ日付が翌日が変わってから退勤する場合でも「印字段切換時刻」を設定することにより出勤、退勤の印字をカードの同じ段に打たせることができます。

例えば、夜勤をする人がある月の24日午後10時(22時)に出勤し翌日の25日午前6時に退勤する場合は、「印字段切換時刻」を午前6時以降に設定しておけば出勤、退勤が同じ段となります。以下にこの人を例に印字結果を示します。

- 「印字段切換時刻」が初期設定のままの午前5時で、午前6時に退勤する場合
(「印字段切換時刻」を退勤時刻より後の時刻の場合)

出勤、退勤で印字段が変わってしまう

		㊄ 22:00							
			㊄ 6:00						

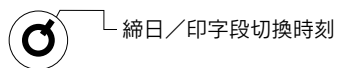
- 「印字段切換時刻」を午前7時と設定し、午前6時に退勤する場合
(「印字段切換時刻」を退勤時刻より後の時刻に設定した場合)

出勤、退勤共に同じ印字段となる

		㊄ 22:00	㊄ 6:00						

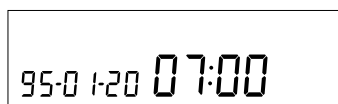
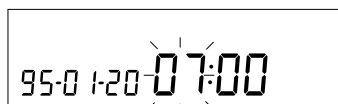
印字段切換時刻の設定は次の例を参考に行ってください。

例 印字段切換時刻を午前5時00分から午前7時00分に変更する場合



締日／印字段切換時刻

- 1 カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「締日／印字段切換時刻」に合わせてください。



2 開始ボタンを押し、次に \square ボタンを押して、表示の時刻の“時”を点滅させます。

3 例では、5時→7時に変更しますので、 \square ボタンを押して表示の点滅を“07”に変更します。次に \square ボタンを押して表示の点滅を“分”に移します。

4 例では、“分”は00分のまま変更しませんので、そのまま \square ボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

週間プログラムの設定

曜日・時間帯別に赤黒2色印字、外部時報の吹鳴時刻、指定印字欄をプログラムすることができます。

※タイムレコーダーの1日の始まりは印字段切換時刻が基準となります。前述の「印字段切換時刻の設定」を参照ください。

※プログラムが設定されていない場合は黒印字、外部時報なし、1欄印字になります。

※プログラムの設定の有無にかかわらず、印字欄についてはタイムレコーダー上面の操作ボタンを押すことにより、ご希望の印字欄に打つことができます。

※外部時報の設定をする場合は、後述の「外部時報の吹鳴時間の設定」および「外部時報のつなぎ方」も必ず確認してください。

※プログラムは48個まで設定できます。

※タイムカードの種類により指定印字欄の範囲は以下のようになります。

- DおよびGカードシリーズ 指定印字欄の範囲：1～4欄
- C、Y、Hカードシリーズ 指定印字欄の範囲：1～6欄

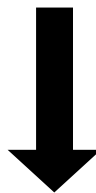
指定印字欄の範囲外を設定した場合、ご使用時タイムレコーダーにタイムカードを挿入するとエラー“E-20”が表示され打刻できません。

週間プログラムの設定は次の例を参考に行ってください。

例

月～金	印字段 切換時刻	1欄	外部時報 8:30	2欄	外部時報 17:00	4欄	印字段 切換時刻
		黒印字		赤印字		黒印字	
土	印字段 切換時刻	1欄	外部時報 8:30	2欄	外部時報 12:00	4欄	印字段 切換時刻
		黒印字		赤印字		黒印字	

プログラムナンバー	曜日	時刻	印字色	外部時報	印字欄
1	月～土	8:30～	赤	あり	2欄
2	月～金	17:00～	黒	あり	4欄
3	土	12:00～	黒	あり	4欄



タイムレコーダーの設定では

印字色：黒 → “01”、赤 → “02”

外部時報：なし → “00”、あり → “01”

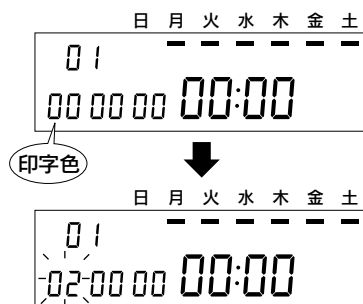
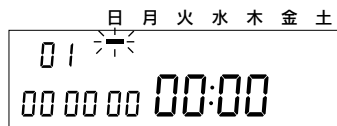
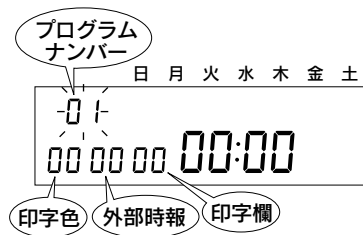
印字欄：1欄 → “01”、・・・、6欄 → “06”

として設定します。

従って、プログラム表は下表のようになります。

プログラムナンバー	曜日	時刻	印字色	外部時報	印字欄
01	月～土	8:30	02	01	02
02	月～金	17:00	01	01	04
03	土	12:00	01	01	04

週間プログラム



- 1 カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「週間プログラム」に合わせてください。表示の「プログラムナンバー」の“01”が点滅します。

設定パネルの□・□・田・□ボタンの使い方は、前述の「操作ボタンの使い方」の項を参照してください。

印字色の選択は以下の数値設定になります。
黒印字：01
赤印字：02

例の1番目のプログラム“01”を設定します。

- 2 曜日の設定

□ボタンを押して、表示の日曜日の下のカーソル“—”を点滅させます。例では月～土曜日までなので□ボタンを押して日曜日は消灯のまま月曜日にカーソル“—”を移動させます。

次に田ボタンを押して、月曜日を点灯させてカーソル“—”を火曜日に移動させます。

同様にして田ボタンを押して順番に土曜日までカーソル“—”を点灯させます。(月～土曜日までカーソル“—”が点灯していることを確認してください。また、土曜日に田ボタンを押したときにカーソル“—”は日曜日の下で点滅します。)

- 3 印字色の設定

□ボタンを押して表示の点滅を「印字色」の“00”に移します。例では、印字色は赤なので田ボタンを押して“02”に設定します。

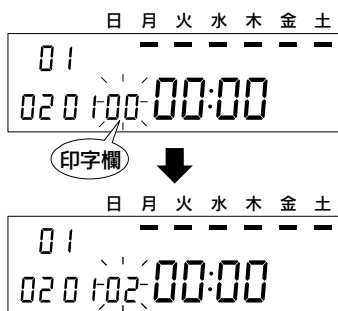


4 外部時報の設定

□ボタンを押して表示の点滅を「外部時報」の“00”に移します。
例では、外部時報「あり」を設定するので□ボタンを押して“01”にします。

外部時報の選択は以下の数値設定になります。
外部時報なし：00
外部時報あり：01

後述の「外部時報の吹鳴時間の設定」も必ずご確認ください。

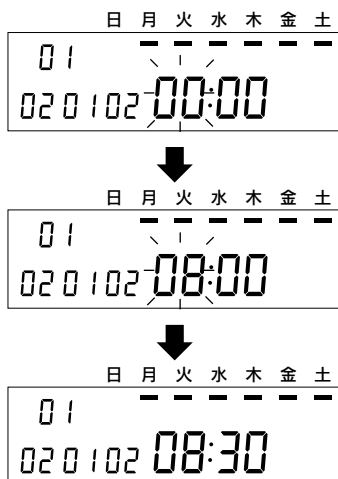


5 印字欄の設定

□ボタンを押して表示の点滅を「印字欄」の“00”に移します。
例では、印字欄を2欄に設定するので□ボタンを押して“02”にします。

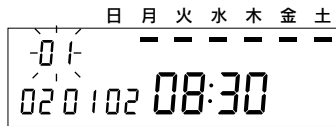
印字欄の選択は以下の数値設定になります。
1欄目：01
2欄目：02

6欄目：06



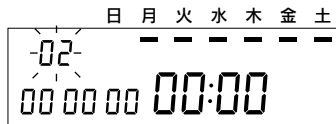
6 時刻の設定

□ボタンを押して表示の点滅を「時刻」の“時”の“00”に移します。
例では、上記「印字色」、「外部時報」、「印字欄」はすべて8:30の設定なので、□ボタンを押して“08”にします。
次に□ボタンを押して表示の点滅を「時刻」の“分”の“00”に移します。30分の設定なので+ボタンを押して“30”にします。

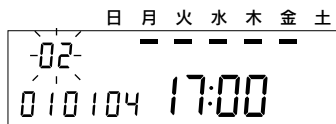


- 7 プログラムナンバー“01”の設定を完了させるため`セット`ボタンを押します。このとき表示のプログラムナンバー“01”のみが点滅した状態となります。

例の2番目のプログラム“02”を設定します。

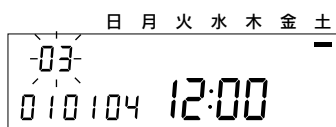


- 8 `+`ボタンを押してプログラムナンバーを“01”から“02”に変更します。



- 9 1番目のプログラムの設定方法と同様にして「曜日：“月～金曜日”」「印字色：“01”」「外部時報：“01”」「印字欄：“04”」「時刻：“17：00”」の設定をします。
(前述の2～7項を参照してください。)

例の3番目のプログラム“03”を設定します。



- 10 `+`ボタンを押してプログラムナンバーを“02”から“03”に変更します。同様にして3番目のプログラムの設定を行ないます。左図のように各項目を設定したあと`セット`ボタンを押してプログラムナンバー“03”が点滅している状態で設定完了です。
(例では土曜日のみの設定なので、表示の土曜日の下の“—”が点灯していることを確認してください。)
前カバーを閉じてご使用ください。

プログラム内容を確認するには

週間プログラム



① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「週間プログラム」に合わせて、表示のプログラム番号を点滅させます。

② 田ボタン、または□ボタンを押して表示のプログラム番号を変更させることにより、各プログラム内容が確認できます。確認が済みましたら前カバーを閉じてご使用ください。

プログラム内容を変更するには

週間プログラム

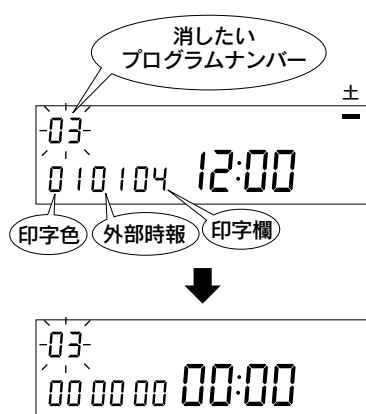
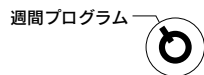


↓
新しいプログラムの入力

① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「週間プログラム」に合わせて、表示のプログラム番号を点滅させます。

② 田ボタン、または□ボタンを押して変更したいプログラム番号を表示させてください。設定したときと同じように操作ボタンを使ってプログラムを変更してください。変更が済みましたらセットボタンを押してプログラム番号が点滅している状態で変更完了です。前カバーを閉じてご使用ください。

プログラムを消すには



① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「週間プログラム」に合わせて、表示のプログラムナンバーを点滅させます。

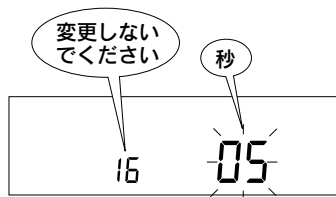
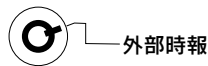
② 田ボタン、または□ボタンを押して消したいプログラムナンバーを表示させてください。設定したときと同じ要領で操作ボタンを使って、左図のように消したいプログラムナンバーの各項目を“0”表示にしてください。最後にセットボタンを押してプログラムナンバーが点滅している状態で削除完了です。前カバーを閉じてご使用ください。

外部時報の吹鳴時間の設定

外部時報は、週間プログラムで指定した時刻に、ここで指定した時間だけ吹鳴します。
タイムレコーダーの初期設定は、吹鳴時間が5秒になっております。
※週間プログラムに関しては、後述の「週間プログラムの設定」を参照してください。
※吹鳴時間は最大59秒まで設定できます。

外部時報の吹鳴時間の設定は次の例を参考に行ってください。

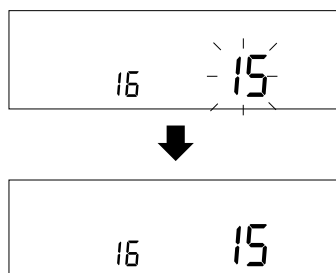
例 吹鳴時間を5秒から15秒に変更する場合



① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「外部時報」に合わせてください。

② 開始ボタンを押し、次に[]ボタンを押して、表示の吹鳴時間の“秒”を点滅させます。

※表示左側の数字はタイムレコーダー内部に関する数字ですので、設定操作はしないでください。印字段が合わない場合がありますので“16”のまま変更せずお使いください。



③ 例では、5秒→15秒に変更しますので、[]ボタンを押して表示の点滅を“15”に変更します。次に[セッ]ボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

ランダムブザー吹鳴の設定

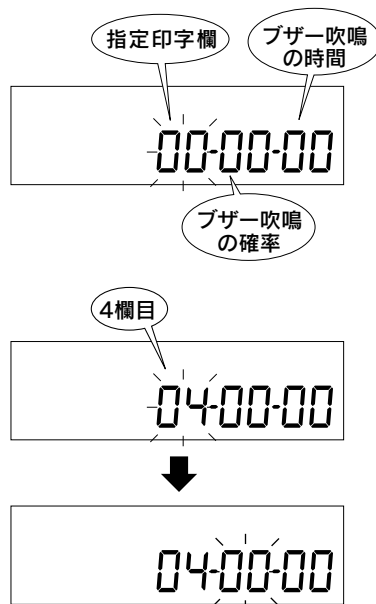
ランダムブザー吹鳴は、あらかじめブザーを鳴らす確率を設定しておけば、タイムカードを挿入したとき、その確率に合わせてタイムレコーダー内部のブザーを鳴らすことができます。さらにある印字欄を指定しておけば、その指定印字欄の打刻のときにのみ確率に合わせてブザーを鳴らすこともできます。ご用途としては例えば、小売店などの従業員の持ち物検査などにご利用いただけます。

ランダムブザー吹鳴の設定は次の例を参考に行ってください。

例 ある百貨店の従業員が帰宅時に持ち物検査をする（ブザーを鳴らす）場合

- 帰宅時（退勤時）の印字欄は4欄目とします。
- 持ち物検査をする確率は20%（5人に1人）とします。
- ブザーは2秒間鳴らします。

Q ランダムブザー吹鳴

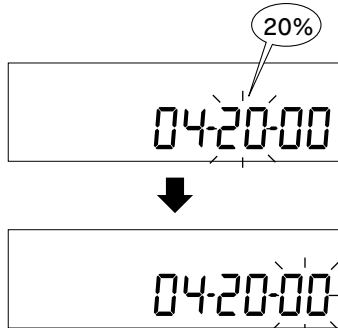


1 カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「ランダムブザー吹鳴」に合わせてください。

2 開始ボタンを押し、表示の「指定印字欄」を点滅させます。

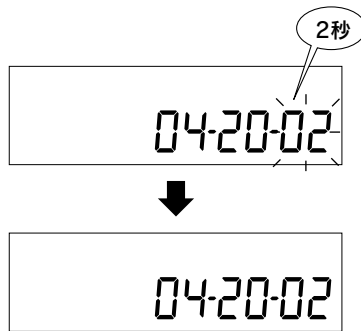
3 例では、指定印字欄を4欄目にしますので、**+**ボタンを押して表示の点滅を“04”にします。次に**-**ボタンを押して表示の点滅を「ブザー吹鳴の確率」に移します。

印字欄は1～6欄の中から選びます。また特に印字欄指定のご希望がない場合は、“00”のままにしておいてください。タイムカードの種類により指定印字欄が異なります。（前述の「週間プログラムの設定」参照）
指定印字欄の範囲外を設定した場合はブザーは鳴りませんのでご注意ください



- 4 例では、確率が20%ですので、**+**ボタンを押して表示の点滅を“20”に変更します。次に**→**ボタンを押して表示の点滅を「ブザー吹鳴の時間」に移します。

ブザー吹鳴の確率は最大99%まで設定できます。



- 5 例では、ブザーを鳴らす時間を2秒にしますので、**+**ボタンを押して表示の点滅を“02”にします。

次に**セット**ボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

ブザー吹鳴の時間は最大9秒まで設定できます。

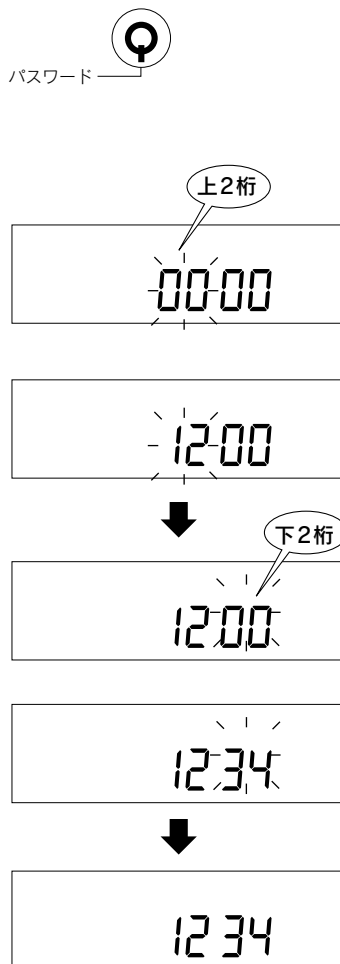
パスワードの設定

改ざん目的などの故意の時間修正や設定の変更を防止するため4桁のパスワードを設定することができます。

一度パスワードを設定してお使いいただいた後に、時刻修正や設定を変更する場合は必ずパスワードを入力してから行ってください。パスワードの入力方法は以下の設定する場合と同じです。

パスワードの設定は次の例を参考に行ってください。

例 パスワードを“1 2 3 4”に設定する場合



① カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「パスワード」に合わせてください。

② 開始ボタンを押し、表示のパスワード上2桁を点滅させます。

③ 例では、パスワード上2桁は“12”にしますので、ボタンを押して表示の点滅を“12”にします。次にボタンを押して表示の点滅を下2桁に移します。

④ 例では、下2桁は“34”にしますので、ボタンを押して表示の点滅を“34”にします。次にボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

パスワードの解除

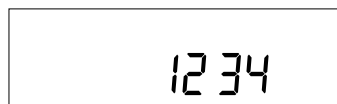
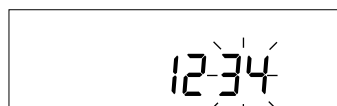
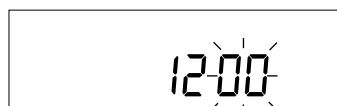
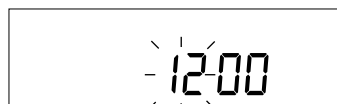
パスワードの解除は次の例を参考に行ってください。

※パスワードが設定されている場合は各設定項目にロータリースイッチを合わせると“00 00”表示となりパスワードを解除しない限り設定変更できません。

※パスワードを忘れてしまった場合は後述の「リセット」を行ってください。

なお、「リセット」を行うと各設定項目は初期設定に戻りますのであらかじめ設定しなおしてください。日付けや時刻も設定しなおしてください。

例 パスワードを“1 2 3 4”を解除する場合

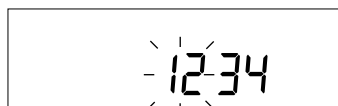


1 カギを開け、前面カバーを前側に開き、カギを使って上面のロータリースイッチを「パスワード」に合わせてください。

2 開始ボタンを押し、表示のパスワード上2桁“00”を点滅させます。

3 上ボタンを押して表示の点滅をパスワード上2桁“12”にします。次に下ボタンを押して表示の点滅を下2桁“00”に移します。

4 上ボタンを押して表示の点滅をパスワード下2桁“34”にします。次にセットボタンを押します。



5 次に開始ボタンを押し、表示のパスワード上2桁を点滅させます。

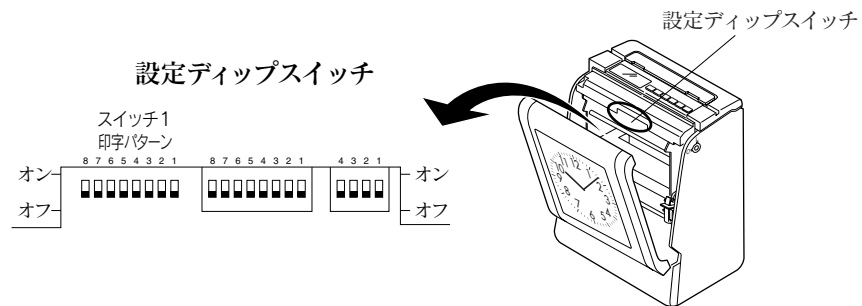
6 田ボタンを押して表示の点滅を“00”にします。次に□ボタンを押して表示の点滅を下2桁に移します。

7 田ボタンを押して表示の点滅を“00”にします。次にセツトボタンを押して設定完了です。このとき表示は点滅から点灯に変わります。前カバーを閉じてご使用ください。

“00 00”の設定が完了したことによりパスワードは解除されます。

印字パターンの設定

タイムカードの上に打たれる印字は「日付+時刻」や「曜日+時刻」、また時刻の「分」も60進や100進など、ご使用に合わせて選択できます。設定にはタイムレコーダー正面上部の設定ディップスイッチ「スイッチ1 印字パターン」を操作して行ないます。なお、タイムレコーダーの初期状態は、「日付+時刻」の印字パターンに設定してあります。



基本印字パターンの設定

印字パターンは次の3種類から選択できます。ご希望の印字パターンの設定はタイムレコーダー正面上部の「スイッチ1 印字パターン」のオン/オフ(上側/下側)で行ってください。スイッチ1の1~4番のオン/オフ(上側/下側)で設定します。

スイッチ1 印字パターン

●：オン(上側) ○：オフ(下側)

スイッチ1								印字パターン	印字例
8	7	6	5	4	3	2	1		
-	-	-	-	○	●	○	○	日付+時刻	☞ 10:00
-	-	-	-	●	●	●	●	曜日+時刻	火 10:00
-	-	-	-	○	○	○	○	時刻	10:00

時刻の「分」印字の設定

「分」印字を通常の60分単位での印字にするか、あるいは60分を100分割した印字にするか選択できます。「スイッチ1 印字パターン」のオン/オフ(上側/下側)で行ってください。スイッチ1の5、6番のオン/オフ(上側/下側)で設定します。

スイッチ1 印字パターン

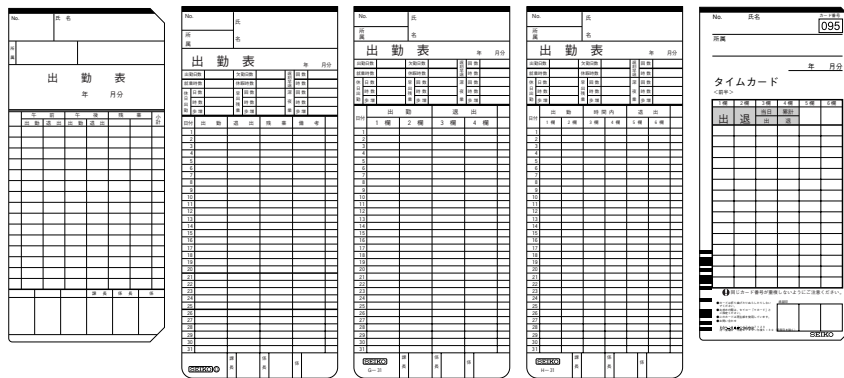
●：オン(上側) ○：オフ(下側) -：「分」印字の設定には関係ありません。

スイッチ1								印字パターン	印字例
8	7	6	5	4	3	2	1		
-	-	○	○	-	-	-	-	"1/60分割"分印字 (通常の時刻印字)	☞ 12:40
-	-	○	●	-	-	-	-	"1/100分割"分印字 (60分を100分割した印字)	☞ 12.67

タイムカードの種類の設定

このタイムレコーダーは以下のタイムカードの種類の中から一つ選択してご利用いただけます。ご使用いただくタイムカードに合わせ、タイムレコーダーにカードの種類を設定します。設定にはタイムレコーダー正面上部の設定ディップスイッチ「スイッチ2カードスイッチ」を操作して行ないます。なお、タイムレコーダーの初期設定は、「CカードシリーズおよびYカード」に設定されています。

ご利用可能なタイムカードの種類



Cカードシリーズ

Dカード

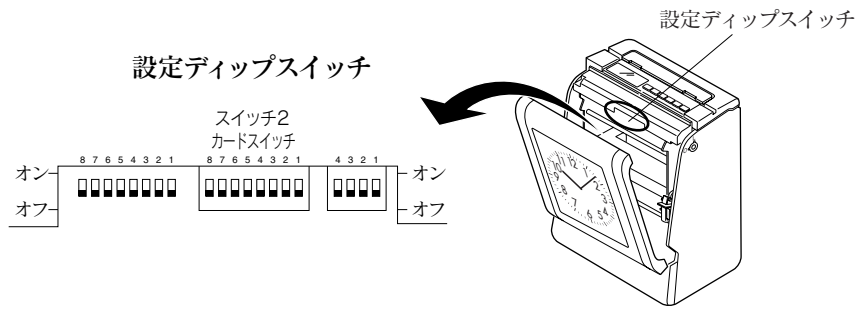
Gカードシリーズ

Hカードシリーズ

Yカード

タイムカードの種類		欄数	印字面	対応締日
Cカードシリーズ	C	6欄	表裏両面使用	任意の締日
	C-20			20日締め
	C-25			25日締め
	C-31			月末締め
Dカード		4欄	片面のみ使用	月末締め
Gカードシリーズ	G-15	4欄	片面のみ使用	15日締め
	G-20			20日締め
	G-25			25日締め
	G-31			月末締め
Hカードシリーズ	H-15	6欄	片面のみ使用	15日締め
	H-20			20日締め
	H-25			25日締め
	H-31			月末締め
Yカード		6欄	表裏両面使用	任意の締日

タイムカードの設定はタイムレコーダー正面上部の「スイッチ2 カードスイッチ」のオン/オフ(上側/下側)で行ってください。スイッチ2の1~4番のオン/オフ(上側/下側)で設定します。



スイッチ2 カードスイッチ

●：オン(上側) ○：オフ(下側)

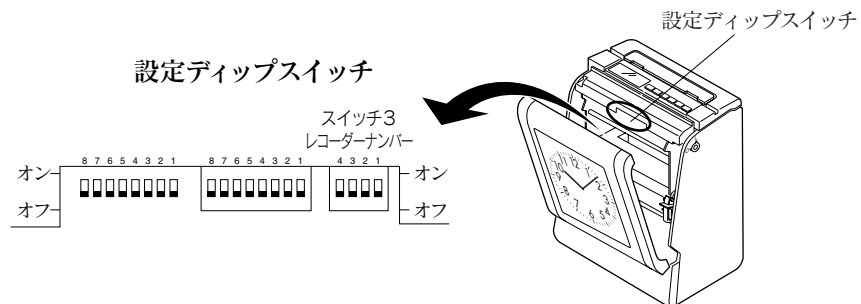
—：タイムカードの設定には関係ありません。

スイッチ2								タイムカードの種類
8	7	6	5	4	3	2	1	
—	—	—	—	●	●	○	○	CカードシリーズおよびYカード
—	—	—	—	●	●	●	●	DカードおよびGカードシリーズ
—	—	—	—	●	○	●	○	Hカードシリーズ

※DカードまたはGカードシリーズを選択された場合は、タイムカードに印字される文字が大きなサイズとなり、時刻の確認がしやすくなります。

レコーダーナンバーの設定

タイムレコーダー 1 台 1 台に個別のレコーダーナンバーの登録ができます。ご希望のレコーダーナンバーの設定はタイムレコーダー正面上部の「スイッチ3 レコーダーナンバー」のオン/オフ (上側/下側) で行ないます。



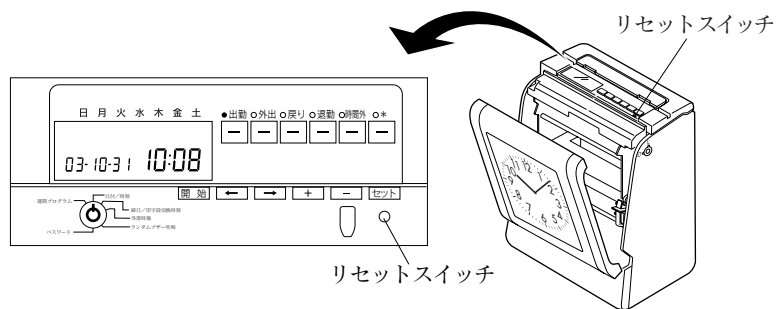
スイッチ3 レコーダーナンバー

●：オン (上側) ○：オフ (下側)

スイッチ3				レコーダーナンバー	印字例
4	3	2	1		
○	○	○	●	ナンバー 1 番	1 ㊟ 10:00
○	○	●	○	ナンバー 2 番	2 ㊟ 10:00
○	○	●	●	ナンバー 3 番	3 ㊟ 10:00
○	●	○	○	ナンバー 4 番	4 ㊟ 10:00
○	●	○	●	ナンバー 5 番	5 ㊟ 10:00
○	●	●	○	ナンバー 6 番	6 ㊟ 10:00
○	●	●	●	ナンバー 7 番	7 ㊟ 10:00
●	○	○	○	ナンバー 8 番	8 ㊟ 10:00
●	○	○	●	ナンバー 9 番	9 ㊟ 10:00
●	○	●	○	ナンバー 0 番	0 ㊟ 10:00
○	○	○	○	レコーダーナンバーなし	㊟ 10:00

リセット

すべての設定を初期設定に戻したいときには、先の細いものでリセットスイッチを押してください。



リセットすることにより、お客様が設定した内容は消えてしまいます (初期設定の状態に戻ります) のでご注意ください。
日付や時刻も含めて前述の各設定方法をご参照の上設定しなおしてください。

7. 外部時報のつなぎ方

タイムレコーダーに外部時報機器(チャイム、ブザーなど)を接続してご使用の場合は、外部接点仕様をよくご確認の上、以下の手順で接続してください。また、吹鳴時刻の設定方法は前述の「週間プログラムの設定」および「外部時報の吹鳴時間の設定」を参照してください。

外部接点仕様

- 接点出力：無電圧接点出力 1回路
- 接点容量：AC負荷 100V 1.2A以下
DC負荷 30V 2.0A以下

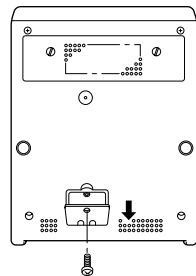
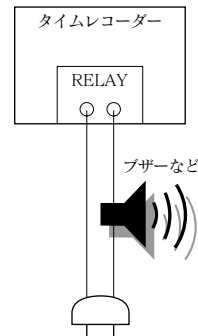


ACを使用した外部情報機器を接続する場合は、電気工事の有資格者以外は絶対に行わないでください。

またその際、接続する外部時報機器およびタイムレコーダーの電源プラグは、必ずコンセントから抜いてから行ってください。

通電時に行った場合、感電、火災の危険があります。また、接続した電線は、不用意に抜けないようにタイムレコーダーの近くでクランプ止めなどを施してください。

※接続例



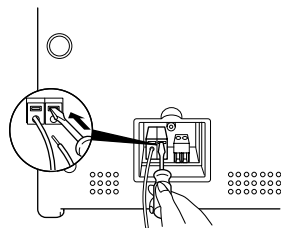
① 外部時報機器およびタイムレコーダーの電源コードが接続されている場合は、コンセントから抜いてください。

次に、タイムレコーダーの背面のフタのネジを外して、フタをとります。

② 図のように、左側の端子台(RELAY)の上側をマイナスドライバーで押しながら、外部時報の電線を2本差し込みます。

③ フタにはU字型の切り込みが入っています。そこを割って、外部時報の電線をタイムレコーダーの外に出してください。

④ フタのネジを取り付けてください。



外部時報機器を普段ご利用される場合のご注意



ACを使用した外部時報機器をご使用される場合は、接続された電線をタイムレコーダーの近くでクランプ止めなどをして抜けないように固定してください。電線が外れた場合、感電、火災の危険があります。

9. こんなときには

エラー番号が表示されたら

エラー番号を確認して正しい操作を行ってください。

エラー番号	内容	対策
E-03	挿入したタイムカードの表裏が逆です。	タイムカードの表裏を逆にして挿入してください。
E-04	タイムカードの種類の設定が正しくありません。	ご使用のタイムカードがタイムレコーダーのカード設定に合っているか確認してください。
E-05	タイムカードを正しく引き込むことができません。	タイムレコーダー内部にクリップや付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。確認後、再度タイムカードを挿入してください。
E-20	週間プログラムの指定印字欄がご使用タイムカードの印字欄の範囲外です。	週間プログラムの印字欄の設定を確認してください。(タイムカードにより指定印字欄の範囲は異なります。)
E-30	プリンタヘッドのセンサーエラーです。	タイムレコーダー内部にクリップや付箋などの異物やタイムカードが詰まっていないか確認してください。
E-31	タイムカードが詰まったまま排出されません。	電源コードをコンセントから一度抜き、再度コンセントにさしてください。タイムレコーダーが初期動作したあと、まだタイムカードが排出されない場合は、もう一度コンセントから電源コードを抜き、カギを開けて前面カバーを前側に開き、タイムカードを上方向にゆっくり押し上げて上部のカードグチから取り除いてください。

故障かなと思ったら

● 全く動作しない

電源コードはコンセントに正しく差し込んでありますか？

● 印字しない

リボンカセットは正しくセットされていますか？

● 印字位置が合わない

縮日、印字段切換時刻はありますか？

タイムカードが折れたり、曲がったりしていませんか？

ご使用のタイムカードがタイムレコーダーのカード設定に合っているか確認してください。

10.仕様一覧

時計精度	月差±30秒以内(常温)
カレンダー機能	～2089年 閏年、大小月、曜日は自動判定
印字方式	ドットインパクト方式
カード機構	自動引き込み・自動排出
対応タイムカード	両面6欄：Cカードシリーズ(C・C-20・C-25・C-31カード) 片面4欄：Dカード 片面6欄：Hカードシリーズ (H-15・H-20・H-25・H-31カード) 片面4欄：Gカードシリーズ (G-15・G-20・G-25・G-31カード) 両面6欄：Yカード ※上記指定のタイムカード以外のご使用は避けてください。 機能障害が生じることがあります。
メモリー保持機能	メーカー工場出荷時より停電累計時間5年間
週間プログラム	赤黒2色印字、外部時報、印字欄の指定 48ステップ設定可
使用環境	温度：-5～45℃ 湿度：20～80%Rh 結露なし 温度が5℃以下の場合には正常に動作しますが、印字濃度、液晶表示の動作は通常の使用時に比べて劣ります。
外形寸法／質量	幅240×高さ327×奥行き185mm／約5.0kg
電源	AC100V±10% 50/60Hz
消費電力	通常2.6W 最大25W

11. 別売付属品および消耗品

- **タイムカード**
1箱100枚入り
 - 両面6欄: Cカードシリーズ
(C・C-20・C-25・C-31カード)
 - 片面4欄: Dカード
 - 片面6欄: Hカードシリーズ
(H-15・H-20・H-25・H-31カード)
 - 片面4欄: Gカードシリーズ
(G-15・G-20・G-25・G-31カード)
 - 両面6欄: Yカード

- **リボンカセット**
QR-900用リボンカセット<型番:QR-70055D>
(QR-700,800シリーズ用リボンカセットと共通です。)

- **カードラック**
CR-15:15人用
CR-30:30人用
CR-50:50人用